

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 森田 光治良

本研究は、大規模診療情報データベースである DPC データベースおよび病床機能報告を用いて看護師に関する急性期病院の構造要因と患者アウトカムの関連について検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. ICU において入院早期から人工呼吸器による管理を受けた患者を対象に高度実践看護師と 30 日院内死亡との関連を検討した結果、ICU10 床当たりの CN/CNS の増加が 30 日院内死亡率低下と有意に関連することが示された。
2. 一般病棟において夜勤帯の看護職員数を増加させることを目的とした加算導入が院内死亡改善とは関連しないものの、在院日数短縮とは関連することが示された。

以上、本論文では今回の研究対象とした急性期領域における看護配置の構造要因の充実が患者アウトカム改善に寄与した可能性を示した。医療の質の評価および、診療報酬改定によって行われる政策的誘導の効果を検証し、その後の政策の評価と改善に繋げることが重要であることを示唆した内容である。また本研究の限界点として、個々の医療の質評価の全てに必要な詳細なデータが全国な大規模データには必ずしも存在するわけではないことが挙げられた。本研究は、大規模診療報酬情報データベースを用いた今後の医療の質評価研究の発展に重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。